



羅針盤

社会科部 情報活用委員会

小久井さんの米作りに学ぶ

男川小学校 校長 中西 勉

「私は、お米の声を聞きながら、お米が育ちやすいように、ただそのお手伝いをしているのです」

これは、7月24日（水）に開催した「授業力・教師力アップセミナー【基礎編】社会科」で、講師を務めてくださった小久井農場会長の小久井正秋さんが語られた言葉です。小久井農場に隣接する田んぼを眺めながら、参加者の先生方に米作りにかける思いを切々と語られる小久井さんの姿に、大きく心を揺さぶられました。

お話の中で、小久井さんは、「自分がお米を育てるんだと思っはいいけない」ということも述べられました。自然の中で、お米がどう育ちたいのか、その声を聞き、それに合うようにちょっと手助けをすること、それが一番大切だということです。小久井さんのこの謙虚な姿勢があるからこそ、小久井さんが作られるお米は格別な味がするのだと思いました。

また、これまで小久井さんは、どうすればよりよい農業ができるのかということ日々考え、それを地道に実践して来られました。その象徴的な事例が、120通りの米作りです。田んぼの耕し方や水の管理、肥



▲米作りへの熱い思いを語る小久井さん

料の与え方などを細かく変えながら40通りの米作りの方法を考案し、それを3年間継続して米作りを行われました。そして、得られたデータを細かく分析して、120通りの米作りの方法の善し悪しを明らかにされました。その研究成果を生かしながら、その年の天候やそれぞれの田んぼに最も適した方法で、おいしいお米を作り続けていらっしゃいます。小久井さんは、この事例について語られた際に、「考えるだけなら誰でもできる。大切なのは、それを実際にやってみることだ」と力強くおっしゃいました。この発想力と行動力があつたからこそ、小久井さんは、年々先細りするこの三河地域の農業を、大規模な機械の導入によって少人数で企業的に耕作することで、見事に改革に成功されたのだと痛切に感じました。こうしたピンチをチャンスに変える小久井さんのチャレンジ精神もまた、私たちに大きな感銘を与えてくださいました。

私たち教師は、日々、目の前の子供たちの心身の健やかな成長を願って教育に取り組んでいます。学校教育の最大の目的は、子供たちの「人格の完成」であり、特に、主権者意識を育み、公民的資質の基礎を養うことを目指す社会科の果たすべき役割は非常に大きいと思います。冒頭で紹介した小久井さんの言葉の中の「**お米**」を「**子供**」に置き換え、「私は、**子供**の声を聞きながら、**子供**が育ちやすいように、ただそのお手伝いをしているのです」という謙虚な姿勢を大切にしながら、今後も全ての子供たちに親身に寄り添っていきたいですね。

「授業力・教師力アップセミナー【基礎編】社会科」報告

東海中 太田 信

7月24日（水）に有限会社小久井農場にて授業力・教師力アップセミナー【基礎編】社会科を開催しました。約100名の先生方が参加されました。

小久井農場会長の小久井正秋様に、各設備の実物を見ながら小久井農場の作業工程についてご説明いただきました。また、安全でおいしい作物を消費者に提供するための工夫や小久井様のこれまでのご努力について分かりやすく教えていただきました。農業に対する小久井様の熱い思いを感じることができる貴重な機会となりました。その後、指導員の安井先生・平岩先生による授業づくりの講義もありました。小久井農場で教えていただいたことをどのように単元構想や授業展開に生かすことができるのかについて学ぶことができました。



社会科・新任の先生紹介

今年度の社会科部の新任は15名です！

男川小	酒井 文成	美合小	野畑佑紀哉	岡崎小	大前 孝輔	連尺小	大高 稜央	広幡小	北野 史也
井田小	小澤 奈子	愛宕小	長谷川柚菜	藤川小	松下 望羽	大樹寺小	澤 一生	大門小	稲葉 好花
六ツ美北部小	近藤 辰紀	六ツ美南部小	島田 晴亘	六ツ美西部小	伊藤かえで	東海中	坂井 麻緒	北 中	増田 智

(敬称略)

発見！一押し地域教材！

「フードショップタカハシ」にどっぷり浸る

★単元

美合小学校 磯貝 優花

○小学3年生 単元「店で働く人」

★この教材を使い、工夫した点

「人」との出会いで子供が変わる

今回は美合学区で57年続く個人商店「フードショップタカハシ」を教材として取り上げました。近年、価格競争や車社会の流れによって郊外に大型ショッピングセンターや大手スーパーマーケットが増えている中、地域の個人商店が高齢者や車の使えない消費者の食生活を支えたり、人と人とのコミュニケーションの場としての役割を担ったりしていることに気付かせたいと考えたからです。多面的・多角的に考察を深めるために、社会科で大切にしている「人」「もの」「こと」。その中でも特に力を入れたのが「人」です。フードショップタカハシの見学はもちろんのこと、店をよく利用している高齢者の方にインタビューをする場を設定したり、昔と今を比べるために長年学区で酒屋を営んできた元総代会長さんをゲストティーチャーとして招いたり、店の存続を一番に願う経営の中心を担っているフードショップタカハシ創設者のお孫さんに思いを語ってもらう場を設けたりしました。様々な「人」たちとの出会いを重ねるうちに、子供たちは目に見える事実の裏側に隠された「思い」や「願い」へと目を向け始めました。その結果、子供たちは、フードショップタカハシが57年続く秘密の一つに、人々の抱える「思い」や「願い」があると気づきました。単元のはじめ、多くの子供たちは「安さ」や「便利さ」だけが店選びの決め手だと考えていました。しかし、この単元の最後には、そこに「お店のあたたかさ」や「優しさ」も加わりました。単元の捉え方、導入の仕方などで社会的な見方・考え方が大きく変化することを再実感しました。今後も社会科教員として、地域教材を活用し、魅力ある単元づくりをしていきたいと思えます。



フードショップタカハシ

必見！授業技！

～主体的に学ぶ生徒の育成を目指して～

竜南中学校 吉田 修梧

中学3年生の金融の単元は、自分事として捉えることが難しく、どうしたら生徒が主体的に学びに取り組むようになるか試行錯誤していました。そこで、株式会社を設立し、資金調達と投資を経験することができれば、金融に対する主体的な学びが実現できるのではないかと考えました。今回の単元では、株式の仕組みについて学習した後に、チームでオリジナルの株式会社を考えました。まず、全チームお菓子会社を設立することになり、「新商品の開発を行う」とこちらで場面を設定しました。会社名、会社のコンセプト、新商品のターゲット層、商品の価格設定、販売方法の工夫、配当・株主優待や社会貢献活動をどうするかについて話し合いました。「今は高齢の人が多から和菓子がいいんじゃないかな」「株主優待を魅力的にしたら投資が集まるんじゃないか」など、チームでの話し合いが活発に行われていました。投資を集めるために工夫されたスライド、プレゼンテーションから、生徒たちが楽しそうに活動する様子が見られました。株式会社の設立、資金調達と投資を行ったことで、生徒たちは実際の株式会社の活動に興味を持ち始めました。授業後の感想を見ると、「家で家族と株の話をしました。」「気に入っている会社がどんな株主優待があるのか調べてみました。」といった主体的に学ぶ姿勢が見られました。生徒が主体的に学ぶためには、学習した内容が実際の社会と繋がっていることに気づくことが重要であり、最も面白いと感じる瞬間だと思います。そこに気づかせる手立てを考えることが、私たちにとって大切であると改めて感じることができました。これからも、主体的に学ぶ生徒の育成を目指していきたいと思えます。



生徒が制作したスライド